

敷地は、「日本のデンマーク」と呼ばれた愛知県安城市の田園地帯が広がる長閑な風景の中にある。両親の田畑を半分だけ宅地化し、残りそのまま畑地として家庭菜園をしながら、長閑な環境で伸び伸びと子育てができる2世帯のための住まいを計画した。

「場所性に調和する佇まいの建築を」という要望が施主から最初に伝えられた。周辺には瓦屋根の民家や寺社も近くにあったが、目に留まる建物の多くは、田園風景の中にある納屋や倉庫、ビニールハウスなどの農業に従事する働く建築物であった。それらは機能に徹しただけの素形でありながら、連続する架構の美しさ、透過性のある開放感、日射調整や作業のための軒下空間など、理に合った機能と美を持ち合わせた田園風景に調和した佇まいの建築であった。

それら過不足ない素形の機能美をお手本として、人が住まうのに必要な風雨を凌ぐための屋根を先ず計画した。形状は南側の日射調整と、北側に広がる田園風景を取り込む形を検討し、2.5寸勾配の片流れ屋根とした。そして納屋のような無柱空間をつくる事ができるトラス構造の骨組みを考え、最小限の部材で7650mmスパンを飛ばした大きな一枚屋根を掛けた。

その大屋根の下で、家族が程よい距離感で住まう為に、間仕切壁で緩やかに区切り、さらに南北を貫く三和土で仕上げた土間を設け、内外の曖昧さと連続性、建物で分断された南北の庭を機能的に繋いだ。また、居間と食堂から延びる外部空間には、南北それぞれ室内と同じ大きさの濡れ縁を設け、屋内外が積極的に繋がる居場所を設けた。

居室の天井は全てひとつの大屋根で繋がるため、温熱環境は建物全体による自然の重力換気と、既製品のエアコンと床下のダクトファンを併用したオリジナルの全館空調システムを採用し、何処に居ても一年中温度差がほぼ無い空間を実現している。

三和土仕上げの土間から食堂、居間、水廻り、寝室2と続く。北の濡れ縁の先には田園風景が広がる



北側から見た建物と周辺環境



「南の庭」から見た「南の濡れ縁」



アプローチの先にある玄関土間



玄関アプローチ



玄関土間



勝手玄関と「北の濡れ縁」



駐車スペースから「南の庭」と建物を望む



居間からは「南の庭」を、食堂からは「北の庭」を望む



洗面、トイレ、浴室廻り



寝室2



居間から「南の庭」を望む



ライブラリーと子供室



台所から食堂の方向を見る



土間より左側は子供室、右側はSCLを挟んで居間がある

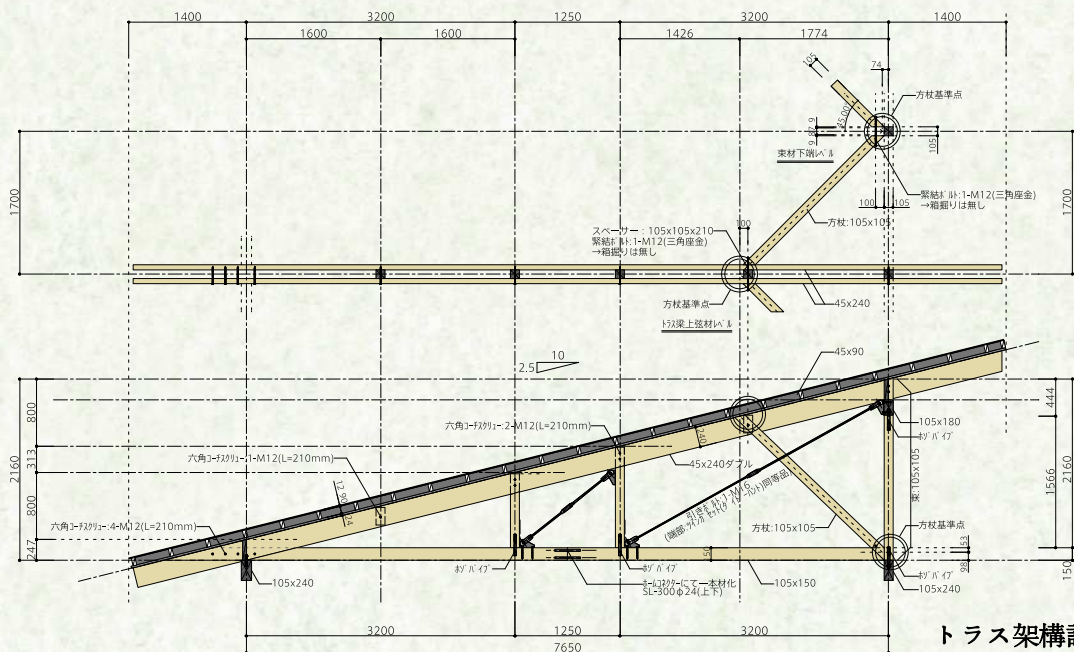


赤松の平屋

～場所性に調和する佇まいの建築を～



付近見取図 1/3000



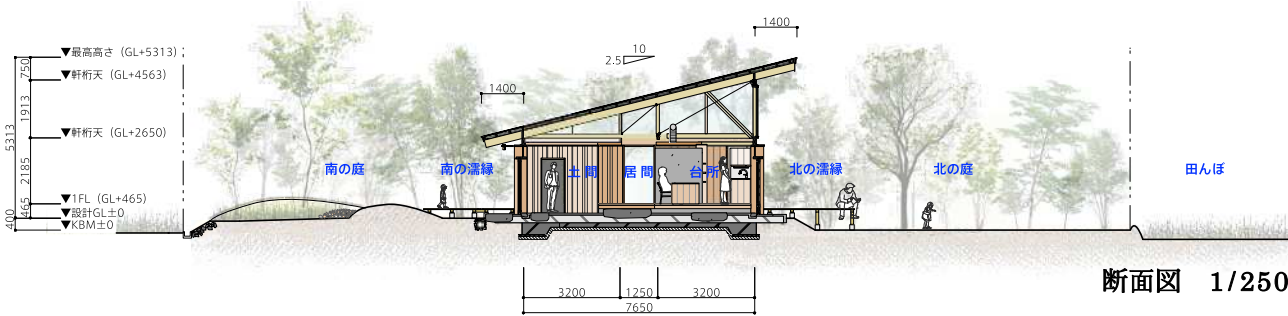
トラス架構詳細図 1/90



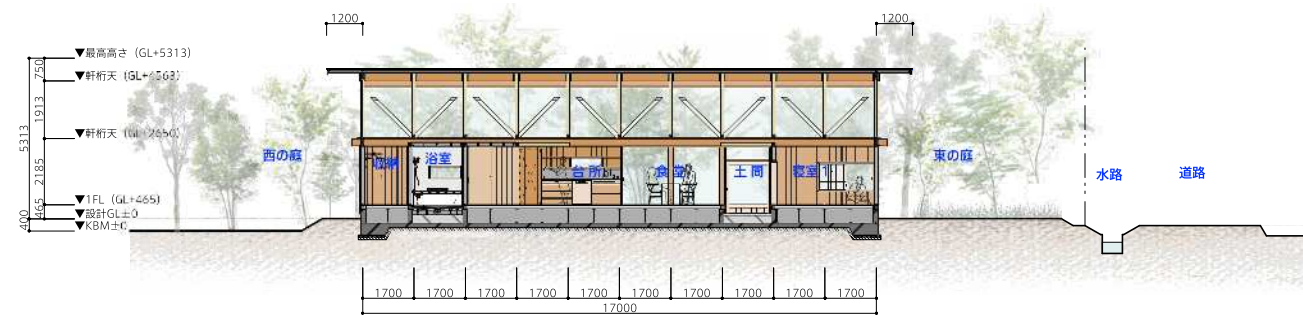
配置平面図 1/250

建築概要

所在地：愛知県安城市
 規模構造：木造平屋建て
 敷地面積：495.87㎡
 延床面積：130.73㎡



断面図 1/250



トラス屋根の上棟

トラス構造の骨組みは、予め棟上前に1階床合板の上で地組みし、一体化したものをレッカーで吊り上げ、桁上に乗せ、壁の軸組材と固定し骨組みが完成する。

- ① 基礎+1階床合板の施工
- ↓
- ② トラスを1階床上で地組み
- ↓
- ③ 桁レベルまでの骨組み施工
- ↓
- ④ トラスの吊り上げ
- ↓
- ⑤ 方柱材と引きボルトの施工



土間のセルフビルド

土間に配置する沓脱石は、地元岡崎産「宇寿石」を使用。採掘現場へ造園家と足を運び、一石ずつ選定してきたものを配置している。三和土の仕上は、左官職人の松木憲司さん（蒼築舎）を中心として、施主、設計者、造園家、設計仲間とともに、ワークショップ形式で素人も一緒に参加し施工。藁ササを混ぜたり、骨材の大きさや配合を調整しながら、経年変化を積極的に楽しめる三和土になるように仕上げた。



温熱環境システム

冬用エアコンは床下に、夏用エアコンは室内壁に設置。季節ごとにそれぞれのエアコンで全館空調を行うために、ダクトファンを床下空間に設置している。ダクトファンにより、床下と室内を繋ぐ空気トンネルを作り、空気を循環させ一年中、温度差のほぼ無い環境を実現している。

中間期は、自然の風を活用した換気と同時に、土間スラブに伝わる地中熱を利用する為、ダクトファンは正回転、逆回転を季節に応じて調整しながら常に運転し空気を循環させている。